

こう りつ ちゅう こう いっ かん こう
公立中高一貫校
 こう かく りょく こう ざ
合格力講座

2018年度
合格へのこの一問!

執筆・早稲田進学会(大島茂) イラスト・青山ゆういち

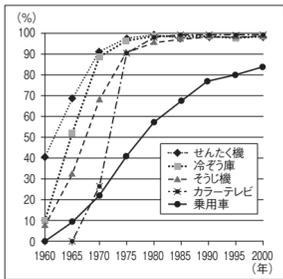
第1回東京オリンピックからの生活や産業の変化を見てみよう。

ちょう せん
挑戦!

滋賀県立中 2017年度 適性検査から
 抜粋(一部改変)

春男さんたちは、1964年に東京オリンピックが開催されたことを知り、当時の日本の様子について調べたことをグラフ1とグラフ2、資料1にまとめ、それぞれが興味をもったことを話し合っています。あとの**問題1**～**問題5**に答えましょう。

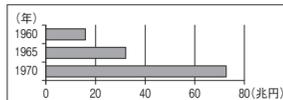
グラフ1 家庭電化製品と乗用車のふきゅう率



資料1 東京オリンピック前後のできごと

1960年	国が、太平洋側の海ぞいに、工業地域や工業地域を広げる太平洋ベルトの構想を示す
1963年	名神高速道路(粟東一尾結間)が開通する
1964年	東海道新幹線が開通する
1965年	東京オリンピックが開かれる
1965年	戦後初めて、日本の輸出額が輸入額を上回る
1968年	日本の国民総生産が世界第2位に上昇する

グラフ2 日本の国民総生産の移り変わり



秋子さん: 東京オリンピックの前後に、多くの電化製品がふきゅうしているよ。どの製品がどのようにふきゅうしたのか、くわしく見てみよう。

春男さん: 家庭で使う電化製品が普及したのだから、当時の人々の家事の様子に変化があったと思うよ。おばあさんに聞いてみるよ。

冬人さん: 東京オリンピックの前後で、日本の国民総生産が大きくのびているね。どうしてかな。

夏美さん: 東京オリンピックの前に、滋賀県にも高速道路がつくられているね。工業製品の輸送が便利になったのかな。わたしは、工業について調べたいな。

問題1 秋子さんは、電化製品のふきゅうの様子に興味をもちました。東京オリンピックが開かれた翌年と、その10年後と比べて、最もふきゅう率が上昇した電化製品は何でしょうか。グラフ1から読み取って書きましょう。

問題2 春男さんは、電化製品がふきゅうする前の家事の様子について、おばあさんにインタビューしたり、1960年ごろの電化製品の広告をインターネットで調べたりしました。おばあさんの話や資料2を参考にして、電化製品がふきゅうする前と後で、人々の家

資料問題編⑧

高度経済成長期からの日本を見ると

事の様子がどのように変わったのか説明しましょう。

おばあさん: せんたくは、たらいに水をくみ、せんたく板のみぞの上で、せんたく物のよごれをとこ

資料2 1960年ごろの電化製品の広告

タイムスイッチ付きせんたく機
 ・わずか5分で、きしをためず美しく
 ・ツマミを合わせるだけの簡単そうさ
 ・時間が来たら自動的に回転が止まります

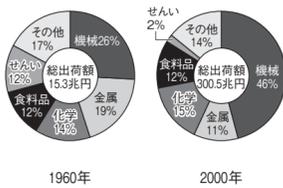
自動電気がすい(飯器)
 ・スイッチ一つでおしくたくけます
 ・たきあがれば自動でスイッチが切れます
 ・そばについている必要がありません

ろをこすってあらったんだよ。ごはんはかまどで火をおこして、たいていたよ。わたしも、子どものころ、お手伝いをしていたよ。

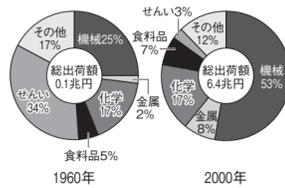
問題3 資料1には、冬人さんが関心をもった、日本の国民総生産の増加に関するできごとがふくまれています。国民総生産の増加について、資料1から考えられる理由を2つ以上書きましょう。

問題4 夏美さんは、全国と滋賀県の工業製品の出荷額が、1960年と2000年とでどのように変わったのか、資料を集めて調べました。グラフ3とグラフ4から読み取れることを、次のアからオの中から2つ選び、記号で書きましょう。

グラフ3 全国の工業製品出荷額の割合



グラフ4 滋賀県の工業製品出荷額の割合



(グラフ3, 4は経済産業省「工業統計調査」による。)

ア 1960年の全国と滋賀県は、機械のしめる割合よりもせんいのしめる割合のほうが大きい。

イ 1960年と2000年とを比べると、総出荷額が増えた割合は、滋賀県の方が全国より大きい。

ウ 2000年の滋賀県は、機械のしめる割合が最も大きく、機械の出荷額が3兆円を超えている。

エ 1960年と2000年とを比べると、全国も滋賀県も金属のしめる割合が増えている。

オ 2000年では、全国も滋賀県も、機械、金属、化学の3つを合わせた割合が全体の4分の3をこえている。

夏美さんたちは、全国、滋賀県ともに出荷額の割合が増えている機械工業のうち、自分たちの生活に身近な自動車についてさらにくわしく調べることにし、自動車工場で働いているおじさんから、自動車づくりで大切にしていることについて、話を聞きました。

おじさん: わたしたちは、お客さまの注文や、社会の変化などに合わせて、関連工場と協力し、部品を余らせないようむだなく生産しています。また、リサイクルしやすい自動車部品の開発も進めています。それから……

夏美さんたちは、おじさんから聞いたことをふせんに書いて分類しながら、「自動車づくりで大切なこと」というテーマで、現在の取り組みや、新しい技術などについて、話し合いをしています。

①消費者の好みに合わせた自動車づくり	③自動ブレーキなどの安全な技術の開発	⑤電気自動車や燃料電池自動車ハイブリッドカーなどの開発
②すばやく正確に大量生産するくふうや努力	④体の不自由な人が運転しやすい自動車の開発	⑥部品のリサイクルのくふう

夏美さん: 分類したふせんから、わかることは何かな。

秋子さん: ①、②のふせんから、人々が求める車をつくるために、多くの人がかくふうや努力をしていることがわかるね。

春男さん: ③、④のふせんから、事故が起こりにくく、だれもが快適に使える、人にやさしい車づくりが大切だとわかるね。

冬人さん: ⑤、⑥のふせんから、……

問題5 秋子さん、春男さん、冬人さんは、分類したふせんから気づいたことを説明しています。冬人さんの説明としてふさわしい言葉を秋子さん、春男さんの説明を参考にして書きましょう。

まず解いてみよう!

解説・解答を見ないで、まず自分で分析してみよう!

解説

問題1 「最もふきゅう率が上昇した」とは、つまり、基準となる2つの年の間の変化が一番大きいものとなります。

問題2 手作業と全自動の違いは家事を大きく変えました。

問題3 工業の発展、物流や貿易の活発化など、高度経済成長の特徴に着目しよう。

問題4 問われている年、地域、内訳の割合を、注意深く見ていこう。イ、「総出荷額が増えた割合」なので、2つの年を比較するための簡単な計算が必要です。ウ.6.4兆円の53%ですから暗算でわかりますね。

問題5 電気や燃料電池を使った車の開発や部品のリサイクルをすることのねらいを考えてみよう。

解答例

問題1 カラーテレビ

問題2 電化製品がふきゅうする前は、水くみ、こすり洗い、火おこしなどすべて手作業でやっていたが、ふきゅう後は、スイッチ一つで、すべてが自動で行われるため、その場をはなれることができ、家事の負担が減り、時間の余裕が生まれるようになった。

問題3 ・太平洋ベルト構想で工業が発展した。 ・高速道路や新幹線が開通し、物資や旅客の流れが高速かつ増大化した。 ・輸出額が輸入額を上回り、貿易黒字となった。

問題4 イ・ウ

問題5 二酸化炭素を出さない車をつくったり、リサイクルをして資源を大切にしたりと、地球環境にやさしい車づくりをしていることがわかるね。